

# 第2期潮来市学校適正化計画

2024-2028

## 【概要版】

### 計画の背景と目的

本市では、2018年度（平成30年度）に、潮来市立小中学校の将来の適正規模や適正配置の方針を示す計画として、「潮来市学校適正化計画」を策定し、大生原小学校と延方小学校の統合など、市立小中学校の適正化を推進してきました。

その間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やデジタル化の進展、小学校の35人学級への見直しなど、学校を取り巻く環境も大きく変化しています。

第2期計画では、近年の学校を取り巻く変化や少子化の進展等を踏まえて、児童数・生徒数の将来推計、これに基づく適正規模・適正配置の方針を見直すことを目的とします。

令和6年 3月

潮来市教育委員会

# 1 潮来市の小・中学校の状況と推計

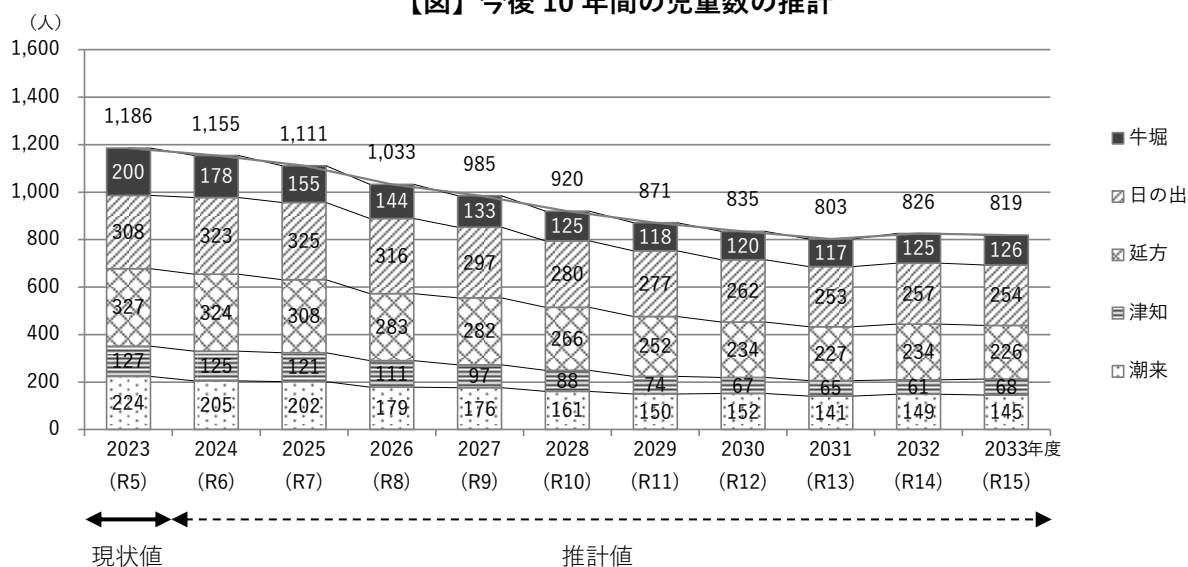
## (1) 小学校の現状と推計

前回計画と同様に、令和5年度現在それぞれの小学校区に居住している対象年齢人口から各学校の児童数を推計してみると、市立全体の児童数は今後も年々減少し、2023年度（令和5年度）から2033年度（令和15年度）の10年間で367人減少すると推計されます。

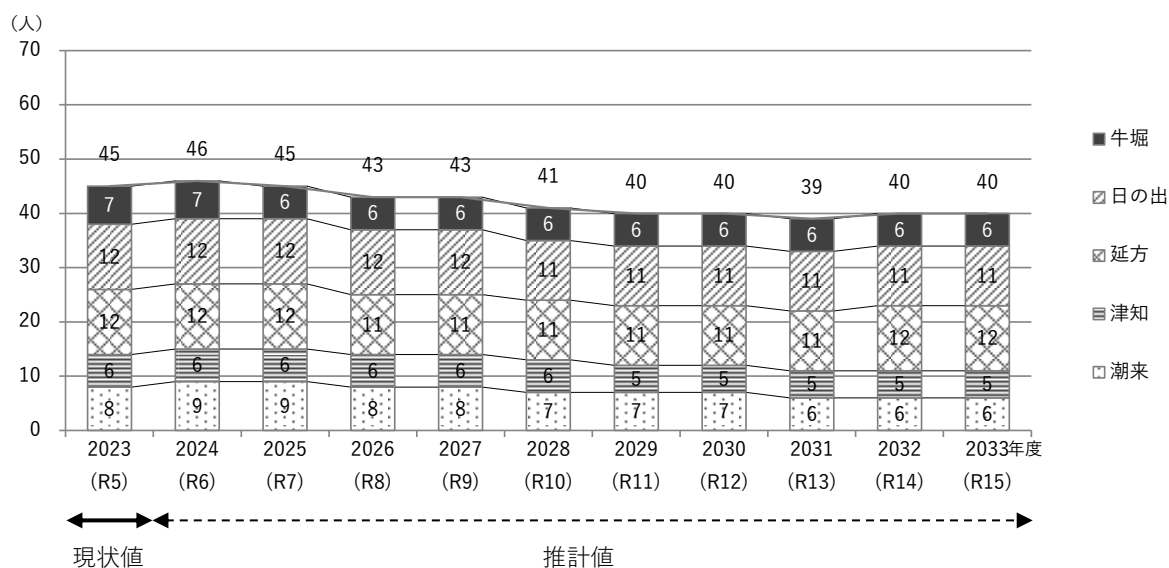
また、学級数については、2023年度（令和5年度）から2033年度（令和15年度）の10年間で5学級減少すると推計されます。

（※小学校及び中学校の推計値には、特別支援学級及び指定校変更は見込まないものとします。）

【図】 今後10年間の児童数の推計



【図】 今後10年間の学級数の推計（普通学級）



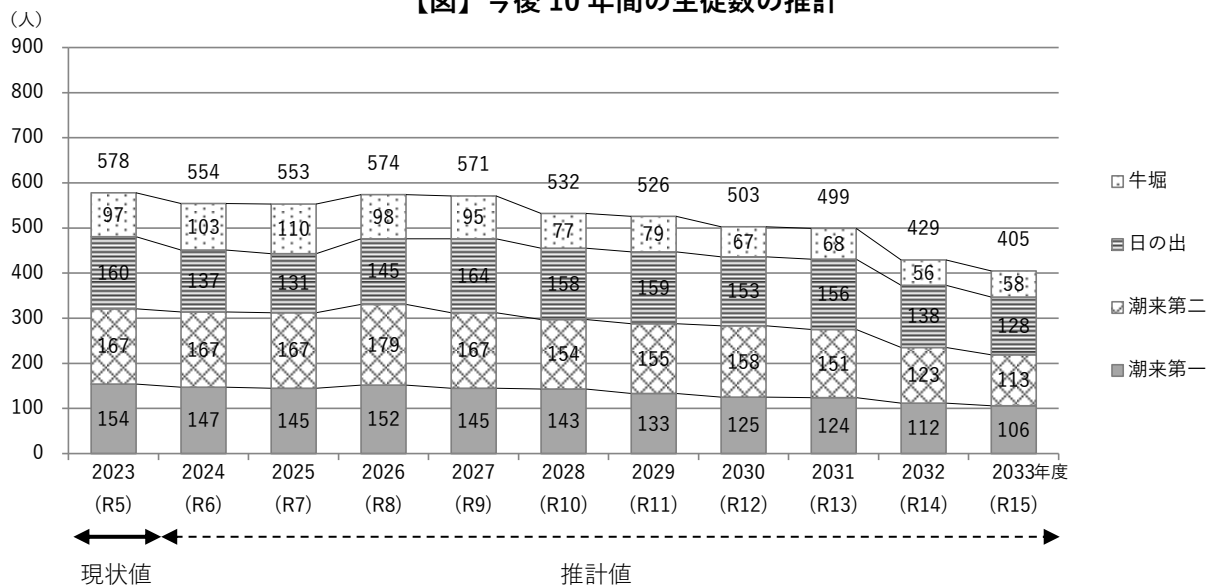
## (2) 中学校の推計

小学校と同様に、令和5年度現在それぞれの中学校区に居住している対象年齢人口から各学校の生徒数を推計します。(※ただし、中学校については、市外中学校への通学者が全体で1割弱ほどおり、今後もその傾向が続くものとして、あらかじめ考慮します。)

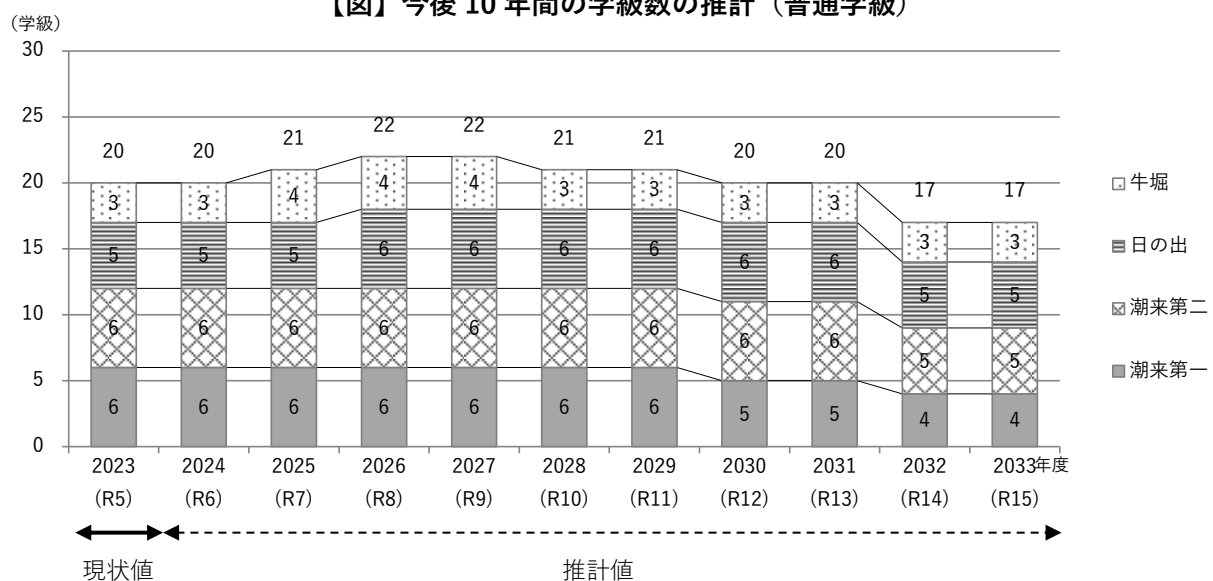
市立全体の生徒数は2027年度(令和9年度)頃までは維持されているものの、その後減少し、2023年度(令和5年度)から2033年度(令和15年度)の10年間で173人減少すると推計されます。

また、学級数については、2023年度(令和5年度)から2033年度(令和15年度)の10年間で、当面は維持されるものの、最終的には3学級減少すると推計されます。

【図】今後10年間の生徒数の推計



【図】今後10年間の学級数の推計(普通学級)



## 2 小・中学校の規模及び配置に関する基準

### (1) 潮来市の小中学校の適正規模の基準

国や県の小中学校の標準規模等を踏まえて、潮来市での適正規模の基準を次のように設定しています。基準を下回る場合、適正化の検討対象とします。一方、統合を図る場合には、適正規模の範囲を目安として検討します。

#### 適正規模

- 小学校： 12 学級～18 学級（各学年 2 学級～3 学級）
- 中学校： 9 学級～18 学級（各学年 3 学級～6 学級）

### (2) 潮来市の小中学校の適正配置の基準

国や県の小中学校の配置の標準を踏まえて、潮来市での適正配置の基準を次のように設定しています。

#### 適正配置

- 小学校： おおむね 4 km 以内
- 中学校： おおむね 6 km 以内

## 3 小・中学校適正化の方向性を見直し

### (1) 必要な学校数

先に設定した児童・生徒数の推計と適正規模の基準より、潮来市全体で将来必要な学校数を算出してみると、以下のような結果となります。

#### 今後中長期的に潮来市で必要とされる学校数

- 必要な小学校数： 4 校程度
- 必要な中学校数： 段階的な適正化 ⇒ 最終 1 校程度

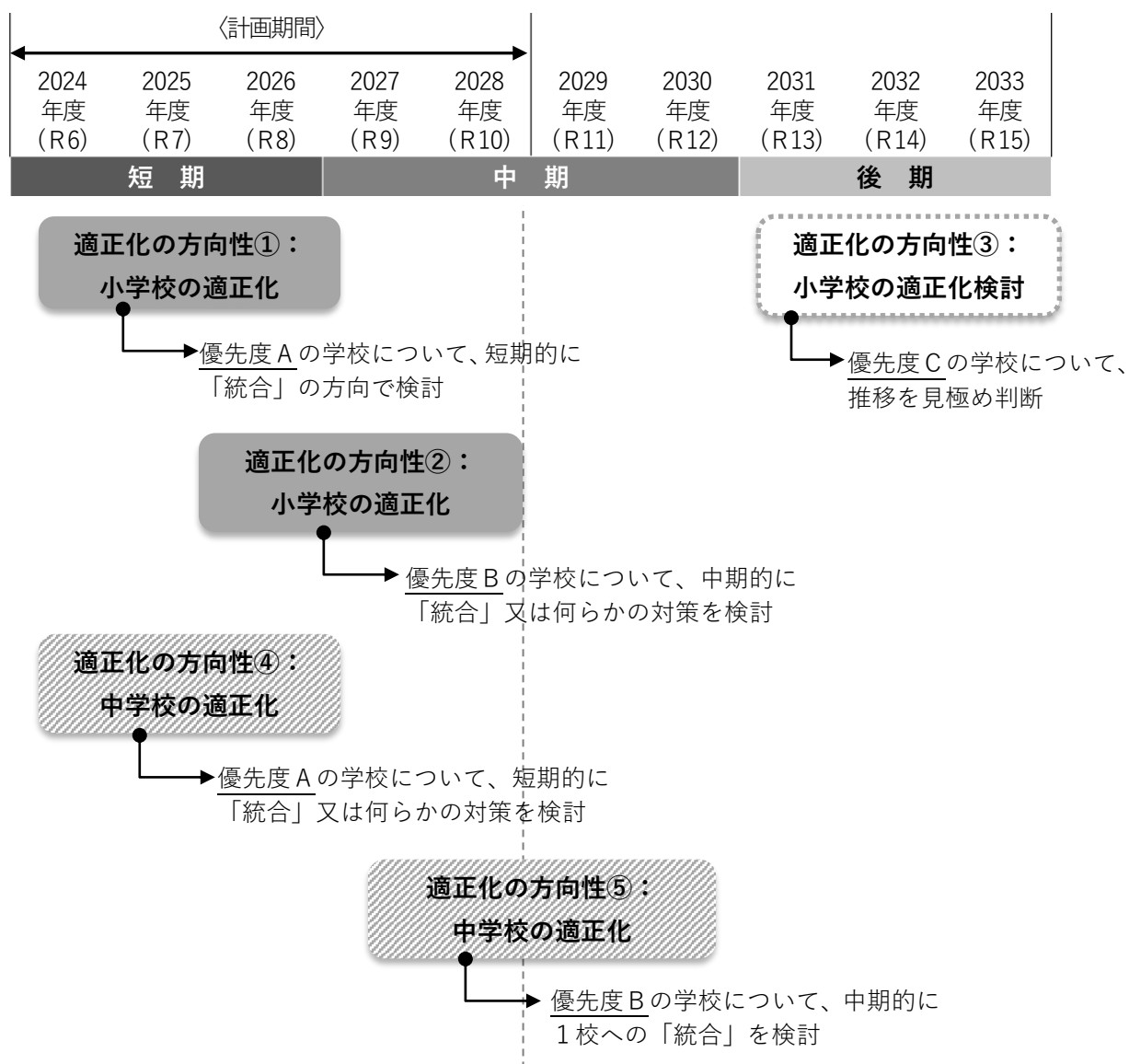
## (2) 小・中学校の適正化の方向性

さらに、推計結果を踏まえた小・中学校の適正化の方向性は、以下のようになります。

【表】 適正化の優先度

	将来の規模	適正化の優先度	対象となる学校
小学校	過小～小規模	A：急ぐ必要がある	津知小
	小規模	B：やや急ぐ必要がある	潮来小、牛堀小
	適正規模	C：急ぐ必要がない	延方小、日の出小
中学校	過小～小規模	A：急ぐ必要がある	牛堀中
	小規模	B：やや急ぐ必要がある	潮来一中、潮来二中、日の出中

【図】 適正化の方向性（イメージ）



## 4 小・中学校の適正化方策

### (1) 小学校の適正化方策

#### ■適正化方策①：潮来小と津知小の統合

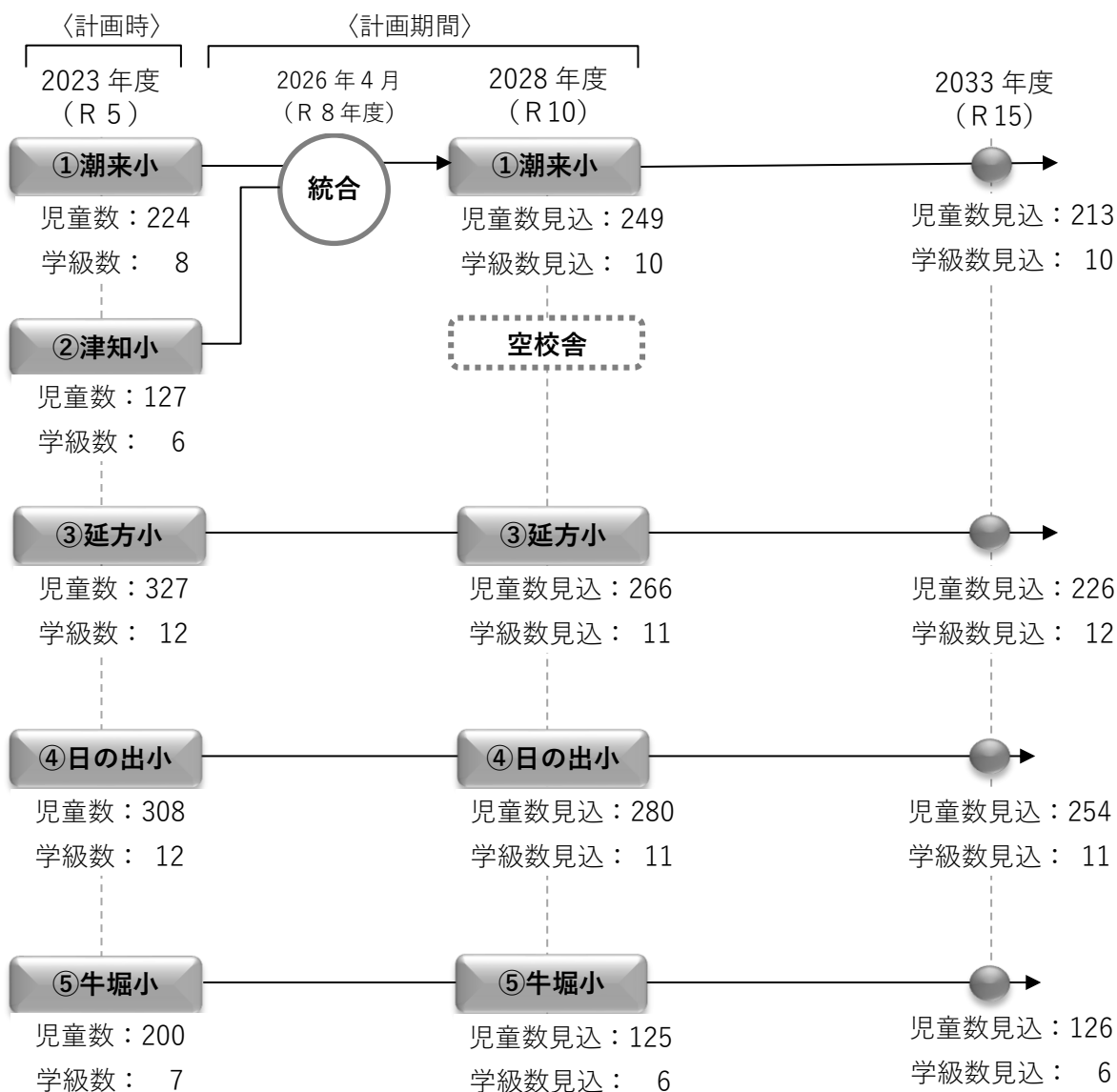
潮来小学校及び津知小学校は、既に小規模校となっており、今後も児童数の減少が見込まれることから、第1期の学校適正化計画に基づき引き続き統合準備を進めるものとし、2026年（令和8年）4月の統合を目指します。

#### ■適正化方策②：牛堀小の小規模化対策への取組

牛堀小学校は、今後も児童数が減少し、今後、計画中期以降には各学年単学級まで減少することが見込まれます。今後も独立して牛堀地区の学校として運営していくためには、特色ある教育や学区の見直し等の検討を進めていくことが必要です。

(※適正化方策③：延方、日の出小学校については、計画期間内は適正化の対象としないものとします。)

【図】市立小学校適正化のロードマップ



## (2) 中学校の適正化方策

中学校については、第1期計画のように1校への統合を4校同時期に目指した場合、受け皿となる校舎や財源の確保、合意形成等で様々な時間を要することから、既存の中学校を受け皿として、段階的に1校への統合を進めることが必要と考えられます。

### ■適正化方策④：牛堀中の小規模化対策への取組

牛堀中学校は、2023年度（令和5年度）時点で3学級の小規模校で各学年単学級であり、今後も生徒数が減少することが見込まれ、できるだけ早期に統合を進めることが必要です。

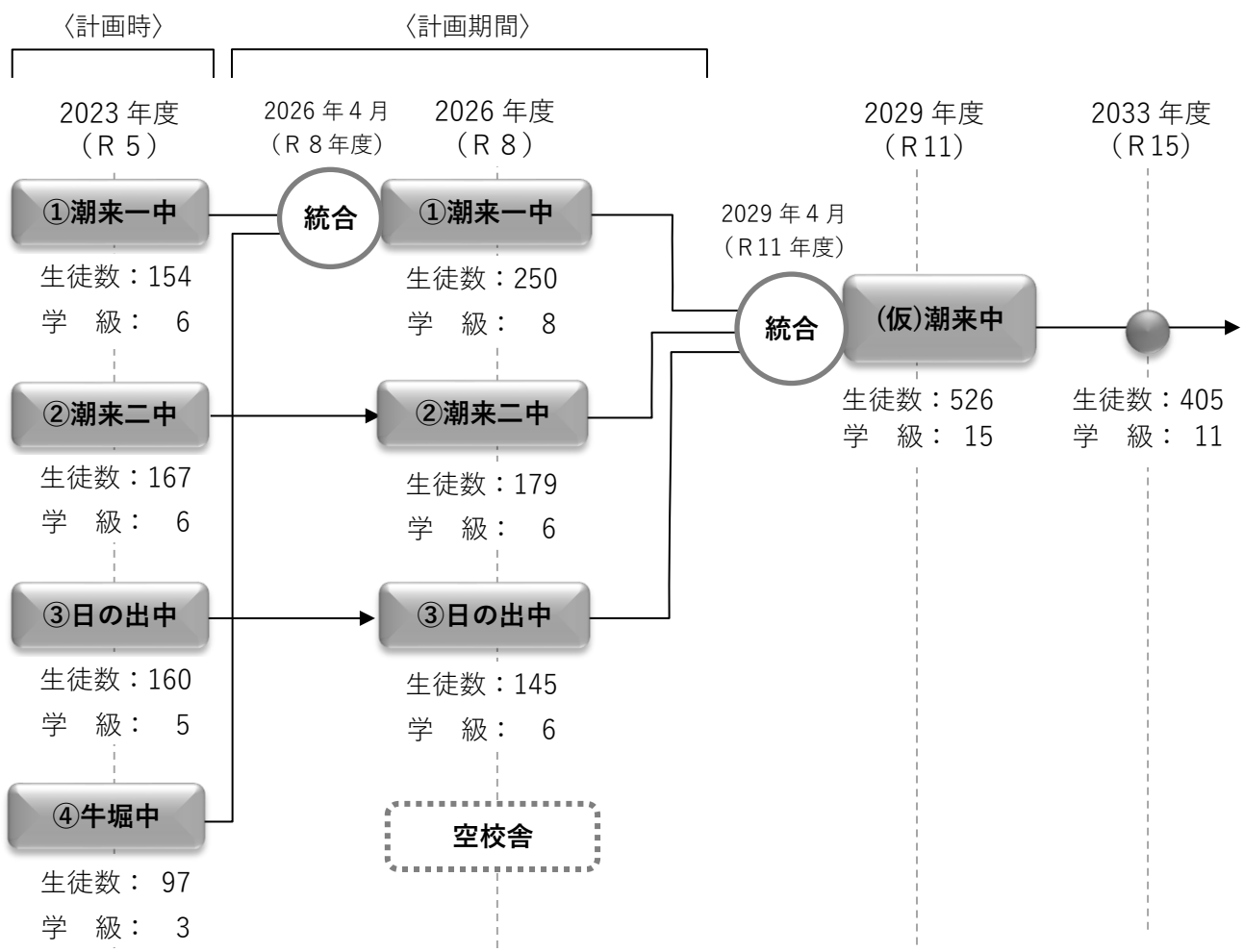
通学距離等を考慮すると、潮来第一中学校との統合が考えられます。

・牛堀中 → 既存中学校（潮来第一）との統合（短期） → 一校化（中期）

### ■適正化方策⑤：潮来一中、潮来二中、日の出中の小規模化対策への取組

2023年度（令和5年度）時点で、潮来第一中学校、潮来第二中学校、日の出中学校についても、小規模校で優先順位がBとなっており、今後も生徒数が減少することが見込まれます。このため、この3校も中期的には統合し、（仮）潮来中学校とすることが考えられます。

【図】市立中学校適正化のロードマップ



# 5 年次計画

計画期間である2024年度（令和6年度）～2028年（令和10年度）で、潮来小学校・津知小学校の統合、潮来第一中学校・牛堀中学校の統合及び中学校全体の統合準備を進めます。

- 牛堀中学校については、2026年（令和8年）4月を目標に、早期の統合を目指します。
- （仮）潮来中学校は、現中学校の敷地及び校舎の活用を前提として、2024年度（令和6年度）から2025年度（令和7年度）に具体的な場所を選定し、2026年度（令和8年度）から統合準備を進めます。

【表】年次計画（案）

年度		計画期間							
		2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 以降
小 学 校	潮来小学校	統合準備			統合	潮来小学校 (校地：現潮来小学校)			
	津知小学校	統合準備			統合	潮来小学校 (校地：現潮来小学校)			
	延方小学校	第2期計画策定							
	日の出小学校	第2期計画策定							
	牛堀小学校	第2期計画策定							
中 学 校	潮来第一中学校	第2期計画策定			統合	潮来第一中学校 (校地：現潮来第一中学校)			統合  (校地：現中学校を活用)  (仮) 潮来中学校
	潮来第二中学校	統合準備①：場所の選定			統合準備②：統合準備				
	日の出中学校	統合準備①：場所の選定			統合準備②：統合準備				
	牛堀中学校	統合準備①：場所の選定			統合準備②：統合準備				

## 潮来市学校適正化計画【概要版】

発行年月：令和6年3月 発行者：潮来市教育委員会  
 編集：潮来市教育委員会 学校教育課  
 茨城県潮来市辻 626 TEL 0299(63)1111(代)

計画書は  
こちらから

